

神姫バス

神戸市の魅力的な まちづくりに活用

スマートバス停のサイネージ画面で他事業者との共同表示を実現し、お客様の利便性が向上！



スマートバス停の掲示イメージ



①連節バスの情報表示

- ・バス運行情報
- ・デジタル時刻表

②路線バスの時刻表表示

- ・現在時刻の時間帯を拡大表示
- ・時刻横の「添え字」を小文字に



神戸のまちづくりを意識した
フラッグ型の停留所案内板。
遠くからでも分かるように高い位置に設置。

**事業者別で、利用者に
わかりにくい交通情報を**

神戸市内には複数の交通事業者が乗り入れています。バス停の時刻表や接近情報システムも事業者別で、同じ行先のバスでも複数の事業者を横断して情報を得ることは難しいなど、利用者にとってはわかりにくい状況にあります。情報システムが分断されている現状から、幅広い層の利便性向上が課題です。

他の事業者との連携に魅力

ちょうどそのとき「アジア太平洋地域ITSフォーラム」(2018年)でスマートバス停を知りました。一般的なサインイメージで表示できる情報は「次は○時○分発○○行」や「バスが一つ前のバス停を出発しました」程度ですが、クラウドから時刻表を配信するスマートバス停には、従来型にない機能があります。また、既存のシステムと柔軟に連携がで

きることも、今後の神戸のまちづくりを考えたときに魅力を感じました。

既存のシステムを スマートバス停に組み込めるのかを検討

ポートループには、当社一般路線バスと同じ国際興業様のバスロケーションシステム(接近情報が搭載されています)。既存のこのシステムをスマートバス停に組み込めるのかどうかが重要な検討課題でした。もし組み込めなければ、スマートバス停専用のバスロケーションシステムを新たに備える必要があり、無駄が増えます。複雑でお客様にもわかりにくいでしまう。神戸市のまちづくりのためには、スマートバス停を活用したバス停標柱の一本化を他地域でもぜひ進めたい。そのためには、他社のシステムとの共存が必要なので、ぜひともこの課題を解決しておきたかったのです。

「運用しながら改良、 クラウドサービスの利便性を実感

時刻表には、行き先や経由地を示す「添え字」が必要です。しかし、運用を始めた時点では文字サイズが一種類しかもく、見やすさの点で課題がありました。YEデジタルは当社のニーズを理解し、他社のサービスで実装した「添え字の小文字化」を提案してくれました。運用しながら利便性を高めていくのは「クラウドサービスならでは」ですね。



右から、神姫バス株式会社 佐藤様、木村様、神姫バス株式会社のキャラクター「ニコパちゃん」

サイネージ画面で他事業者との共同表示を実現

スマートバス停のサイネージ画面には、管理クラウドから、さまざまな機能を割り当て表示させることができます。時刻表はもちろん、ニュースや天気予報サービスも表示できます。今回は、他社のシステムと連携して画面に表示する機能を用いて、新港町バス停では神戸市交通局運行のバスの情報も表示しました。

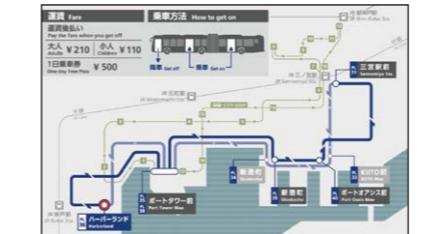
お客様の視点に立つた配慮や、事業者に寄り添う姿勢もありがたく思いました。

**スマートバス停を活用し、
他地域でもバス停表示の一本化を**

今回のスマートバス停導入は、「ウォーターフロントエリア」という限られた地域でした。しかし、現在のような事業者別のバス停表示では、まちとしての神戸の「統一感」を欠く面があり、お客様の利便性もなかなか向上しません。神戸市のまちづくりの一環として、他エリアでもスマートバス停を活用して、バス停表示の一本化を提案していくと思います。

再整備が進む 神戸・三宮都心部に ふさわしい交通案内を

三宮では、神戸市が再開発を進めています。乗継拠点となる三宮は、いろいろな行き先のバスが出発するターミナルですので、発信する情報の柔軟性や即時性からサイネージ導入を検討しました。「都心部にふさわしい交通案内」を提示したいと考えていたこともあり、「街なかにあつて目をひくもの」としてもサイネージは良いと思いました。



神戸市は、「神戸市総合交通計画」(2013年9月策定)に基づき、公共交通ネットワークの利便性の向上を目指して、さまざまな検討を進めました。次世代型路面電車(LRT)や連節バス(BRT)の導入もその一環で、社会実験も複数回行われています。当社は、連節バスの運行実績があることから選定され、2017年ごろから神戸市の三宮都心からウォーターフロントにおける試験運行を開始、2021年4月に連節バス「ポートループ」の運行を開始しました。

連節バス「ポートループ」 運行開始までの動き

神戸市は「港都神戸～都心・ウォーターフロントの将来構想」(2011年)で、デザイン都市の具現化を目指しています。「まちのデザイン」として「人にやさしく快適な回遊ネットワーク」を実現するため、三宮都心・ウォーターフロント(臨海部)への自動車の乗り入れを抑制し、環境にやさしい新たな公共交通を導入、三ノ宮駅などの交通結節機能の強化を進めることとしました。

お話を伺った方々



神姫バス株式会社
バス事業部営業課
木村 真理子 様



神姫バス株式会社
バス事業部営業課長
佐藤 匠 様